

6. 試合の流れ

2014.11改定3-1

6.1 試合開始前

6.1.1 コート入場後、ただちに審判員から雪球の点検を受ける。なお、雪球が規定数より少なかった場合は、補充はせず、そのまま試合を行うこととし、多かった場合は、チームに警告が与えられ、超過分の雪球を除去して試合を行う。

1

6.1.2 主審の指示により、コートや使用ヘルメットを決定した後、フラッグをボールにつける。

6.1.3 両チームはセンターラインを挟んでゼッケン順に整列し、靴及びヘルメットの点検、諸注意を受けた後、挨拶をする(補欠含む)。



6.2 セット開始前

2

6.2.1 挨拶終了後、自陣コートのシャトー裏に1セット分の雪球を運ぶ。

3

6.2.2 選手は2個以内の雪球を持って、片足または両足をバックライン上において整列する。

6.2.3 試合開始は主審の合図による。

6.3 フライング→(P15参照④)

6.3.1 主審が両手を広げたときから開始の合図までの間に、選手が動作を開始した場合、フライングとする。

6.3.2 フライングをした選手はアウトと同様の扱いとなり、そのセットはプレーできない。

6.3.3 フライングがあった場合、そのセットの雪球は補充できないが、再スタート時、そのセット分の中から雪球を持ち直すことはできる。



6.4 試合の中断

6.4.1 主審が試合を中断しなければならないと判断した時、及び副審から中断の通告を受けたとき、主審はただちに試合を中断する。

6.4.2 副審は試合を中断しなければならない状況が発生したとき、ただちに主審に中断を通告する。

6.4.3 試合中、選手が負傷等のため試合の継続が不可能となった場合は、選手又は監督は試合の中断を要請することができる。

6.4.4 試合の中断は主審の合図による。

6.4.5 試合の中断の合図があったときは、選手は、審判員から指示があるまで、雪球を持ったままその場から動いてはならない。

6.5 試合の再開

6.5.1 試合を再開するときは、セット開始時と同様とする。なお、雪球の持ち直しも可とするが、選手が持てる雪球は1人1個以内(自陣コート内にある雪球のみ)とする。

6.5.2 試合の再開は主審の合図による。

6.6 セットの終了

6.6.1 セットの終了は、そのセットの勝敗が決した時、または試合時間が終了した時とし、主審の合図により終了する。

4

6.6.2 セットが終了したとき、アウト以外の選手は直ちにバックライン上に整列し、審判の確認を受ける。

6.7 試合の終了

6.7.1 試合の終了は主審の宣告による。

6.7.2 試合が終了した後、両チームはセンターラインを挟んで全員整列し、主審から試合結果の報告を受ける。



★昭和新年国際雪合戦競技規則
一解説と審判員のためのガイドラインより原文

●改正理由・要旨

本ルールは、雪合戦開始当初から存在しているが、現状では・審判による確認が励行され、たとえ規定以上に持ち込んでも競技運営上支障が出ていないこと

・故意に規定以上に持ち込むケースは少ないことから、罰則対象から除外する。

○改正案

6.1.1 コート入場後、ただちに審判員から雪球の点検を受ける。なお、雪球が規定数より少なかった場合は、補充はせず、そのまま試合を行うこととし、多かった場合は、
[削除: チームに警告が与えられ、] 超過分の雪球を除去して試合を行う。

【ポイント1】 雪球が多かった場合、
「警告」イエローカードの対象削除

【ポイント2】 フライングについて

●改正理由・要旨

副審が、主審の動作をわざわざ視認する必要がなく、フライングなどの判定を合理的に行えるようになるため

○改正案

6.3.1 主審が**開始を宣告した**ときから開始の合図までの間に、選手が動作を開始した場合、フライングとする。

●以下重複、P58審判動作にも記載

9.3.2 試合開始の合図 試合開始を告知するため「用意」と宣告し、両手を左右180度に関いた後、笛を短く吹くと同時に水平に体の前に持ってきて止める。

9.3.3 副審は、**主審が試合開始を宣告した**ことを確認し、選手のフライングを判定する。

運用の考え方

「動作」とは、攻撃しようとする行為、相手のフライングを誘発しようとする行為などが対象とされるが、その対象行為について明確化し、運用することが望ましい。

雪マガ的
解説

【ポイント】 スタートについて

要は「よーい!」、「ドン=ホイッスル」でスタートです。
主審の「よーい!」の声で静止することを推奨します。

「動作」とは、の判断は審判が行います。まぎらわしい動作はせず、
静止する事をおススメします。

7. 反則・罰則等

2014.11改定3-2

7.(1) 反則・罰則

1 選手を退場(レッドカード)とし、チームへ警告(イエローカード)を与える反則

7.1.1 暴力・シエルターの飛び越えなど、審判員が危険と判断した行為

7.1.2 選手や監督が審判員の指示に従わず競技進行を妨げたり、コート外の選手が指示を出すなどの競技妨害行為

7.1.3 審判員の判定に対する抗議行為

7.1.4 相手チームや審判員に対する人格を無視する行為

2 チームへ警告(イエローカード)を与える反則

7.2.1 審判が再三にわたり競技の開始を促したにも関わらず、正当な理由なく競技の開始を拒み、遅延させる行為

7.2.2 雪球を規定以上に持ち込む行為

3 チームを失格(レッドカード)とする反則

7.3.1 上記により、同一大会中に警告を2回受けたとき
7.3.2 正当な理由がなく、チームとして試合を放棄する行為

7.3.3 同一大会中、重複登録または無登録で選手を出場させる行為

7.4 退場となった選手、および失格となったチームは、同一大会において復帰することはできない。

7.(2) 意義・事故

7.5 異議申し立てと質疑

7.5.1 審判員の判定は最終のものであり、異議の申し立てはできない。

7.5.2 監督は、この規則の実施に関して疑義があるときは、コート主任および審判長に対して質問をすることができる。

7.6 延期および中止

7.6.1 気象条件の悪化等により、試合続行が不可能と判断された場合、試合を延期または中止することができる。

7.6.2 試合を中止する場合、第1セットが終了していれば、その試合は成立する。

7.7 事故

7.7.1 選手が負傷したことにより、試合の継続が不可能で、その原因が一方のチームの故意および過失の場合、その原因を起こしたチームの負けとし、その原因が明確でない場合は、継続が不可能なチームの負けとする。

★昭和新山国際雪合戦競技規則
—解説と審判員のためのガイドライン—より原文



イメージ写真

●改正理由・要旨

基本的に反則・罰則の対象は選手・監督とも同様であり、文言を整理する。
ただし、英文規則は監督も対象となっていたため、修正事項はなし

○改正案

7.1 選手・監督を退場(レッドカード)とし、チームへ警告(イエローカード)を与える反則

7.1.2 [削除: 選手や監督が] 審判員の指示に従わず競技進行を妨げたり、コート外の選手が指示を出すなどの競技妨害行為

雪マガ的
解説

表記の整理です。従来通り選手、監督に退場、チームに警告が出ます。

●改正理由・要旨

本ルールは、雪合戦開始当初から存在しているが、現状では、審判による確認が励行され、たとえ規定以上に持ち込んでも競技運営上支障が出ていないこと
・故意に規定以上に持ち込むケースは少ないことから、罰則対象から除外する。

○改正案

7.2 チームへ警告(イエローカード)を与える反則

[削除: 7.2.2 雪球を規定以上に持ち込む行為]

雪マガ的
解説

【ポイント】雪球が多かった場合、「警告」イエローカードの対象から除外。ガイドラインから削除されます。

P21のイラストも適用外となります。



9. 審判員の動作 1

2014.11改定3-3

9.1 試合開始前

- 9.1.1 試合開始前に雪球、服装の点検を終える。なお、雪球が少ない場合はそのままとし、多い場合は、多い雪球を除去し、そのチームに警告を与える。
- 9.1.2 主審は、競技者名簿、チームを確認し、監督同士によりコートサイドや使用するヘルメットの色などを決める。
- 9.1.3 準備ができたらセンターラインを挟んで両チームを整列させ、挨拶及び必要な注意を行い、ヘルメットバンド、靴の確認を副審に指示する。
- 9.1.4 挨拶時は主審を中心に副審は左右に1列に整列する。

9.2 セット開始前

- 9.2.1 副審は選手の雪球、および整列の確認を行い主審に向かって片手をあげ確認完了の合図を送る。
- 9.2.2 主審は時計係・記録係のスタンバイを確認する。
- 9.2.3 各審判員は図3のとおり速やかに配置につく。

9.3 セット開始時

- 9.3.1 主審は副審の合図を受け副審の配置を確認し、競技を開始する。

9.3.2 試合開始の合図



両手を左右180度開いた角度から笛を短く吹くと同時に、水平に体の前に持ってきて止める。※ホイッスル 短く強く大きく「ピッ！」

- 9.3.3 副審は、主審が両手を広げたことを確認し、選手のフライングを判定する。

- 9.3.4 フライングの合図は笛を短く断続的に吹く。

9.4 セット中

9.4.1 アウトの宣告 ①



アウトコールはアウト選手を指差し、限りなく大きな声で「(アオ、アカ)○番アウト!」もしくは「アウト!」してから、ゼッケン色、番号を言っても良い。選手が気づくまで連呼することが重要。

- 9.4.2 アウトを宣告された選手を最寄りのサイドラインから必ず外へ出す。
- 9.4.3 アウトの宣告にあたっては、積極的にアウト部位も告知する。

- 9.4.4 判定がきわどいプレイ等においてアウトではなかったときは、「アウトではないこと」を表現するため、片手を水平に左右に振って「セーフ」と告知することができる。
- なお、「セーフ」の告知は、あくまでも「アウト」ではないことを競技者や観客等に伝えるための表現であり、アウトコールを覆すものではない。
- 9.4.5 1つのプレイに対して「アウト」と「セーフ」の相反する告知があった場合は、「アウト」を優先する。
- 9.4.6 中断時の合図



中断時は、両手を上、前方斜め45度で交差を繰り返す。
コートに入り選手を静止させる。
※ホイッスル 断続的に短く短く
「ピッ!ピッ!ピッ!ピッ!ピッ!——!」

9.4.7 フラッグ奪取の合図 (副審)



フラッグ奪取時は片手を上で旋回する。
※ホイッスル 強く長く
「ピッ——!!」

- 9.4.8 フラッグ取得時は副審の合図を確認し、試合を終了する。全員アウト、4人目進入時も同様に試合を終了する

★昭和南山国際雪合戦競技規則
—解説と審判員のためのガイドライン—より原文

【ポイント3】「警告」イエローカードの対象削除

- 9.1.1 試合開始前に雪球、服装の点検を終える。なお、雪球が少ない場合はそのままとし、多い場合は、多い雪球を除去 **「削除:し、そのチームに警告を与える。」する。**

雪マガ的
解説

審判動作として

- ①該当チーム監督を呼ぶ
- ②雪球が多い事を確認させる
- ③多い雪球を除外する。
- ④注意を行う。

「警告:イエローカードではなくなります。」

【ポイント3】フライング判定の開始と「開始動作」

○改正案

- 9.3.2 **試合開始の合図 試合開始を告知するため「用意」と宣告し、**両手を左右180度を開いた後、笛を短く吹くと同時に水平に体の前に持ってきて止める。

- 9.3.3 副審は、**主審が試合開始を宣告した**ことを確認し、選手のフライングを判定する。

運用の考え方

「動作」とは、攻撃しようとする行為、相手のフライングを誘発しようとする行為などが対象とされるが、その対象行為について明確化し、運用することが望ましい。

雪マガ的
解説

【スタートについて 主審動作】

- ①主審は「よーい!」と大きな声でコール。
- ②ホイッスルをくわえ、両手を広げる。
- ③笛を吹く。
「ホイッスル」でスタートです。

【副審の対応】

主審の「よーい!」のコールから「ホイッスル」鳴るまでライン上の選手の動きにフライング行為がないかを見る